

**令和4年度 第1回 防府市地域福祉推進協議会
会議結果 要旨等**

日 時	令和4年12月19日（月） 午後1時30分～午後3時
場 所	防府市文化福祉会館 3階9号会議室
出席者	<p>【委員】 草平委員、石田委員、内田委員、山崎委員、島田委員、松永委員、肥田委員、 三戸委員、中村委員、河田委員、山野委員、岡田委員、梁井委員 （欠席：長谷川委員、松村委員、齊藤委員、湯面委員、高橋委員、 村田委員、大下委員）</p> <p>【行政等】 防府市健康福祉部長 防府市健康福祉部次長 防府市社会福祉協議会常務理事</p> <p>【事務局】 防府市社会福祉課、防府市社会福祉協議会</p>
傍聴者	なし

※ 以下、会議結果については、発言等の要旨のみを簡略化しています。

1 開 会

2 あいさつ

<市健康福祉部長あいさつ>

第三次計画の期間中には、市社会福祉協議会の新庁舎への移転もあり、福祉分野の関係各課と市社協が一体となった福祉部門の総合窓口を設置するなど、市民の課題に寄り添い、丸ごと受け止めることができる相談体制の構築を図り、地域福祉をより一層推進していかなければならないと考えている。

委員の皆様の闊達なご意見を賜り、第三次計画を推進してまいりたい。

3 議題

「第三次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」の令和3年度の取組計画に対する実施状況の評価 並びに 令和4年度の取り組みについて

<事務局（市社会福祉課、市社会福祉協議会）説明>

～【資料1】実施目標計画（進行管理シート）の評価について

【資料2】「第三次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」実施目標計画一覧

【資料3】「第三次防府市地域福祉計画・防府市地域福祉活動計画」

【令和4年度】実施目標計画 進行管理シート

説明～

<委員 A>

資料1の評価方法の変更について、昨年度より分かりやすい。点数化されて明確な基準になったと思う。

資料3の実施目標計画No.26 避難行動要支援者名簿の提供について、名簿の提供が進んでいない。市内の自主防災組織が200超ある中で、目標が150は低すぎる。200ぐらいにはしておくべきである。まず、自治会にいったん名簿を渡し、対象となる方の存在を知ってもらわなければ先に進まないのではないかと。自治連も協力するが、市も自治連の講習会や防府市防災機構連絡協議会(防災士)などを活用し、取組方法を検討し、来年度は、目標数値を上げて、推進していくことに積極的に取り組んでもらいたい。

実施目標計画No.30 情報提供の充実について、防府市社会福祉協議会のホームページのリニューアルについて、4月にリニューアルされていたが、一方的な情報発信になっている。車いすやチャイルドシートを借りたい場合などにインターネット上で手続きが完了するような双方向性が必要と考える。

実施目標計画No.35 NPO、市民活動団体等との連携について、多くの地域で子ども食堂、地域食堂の開設やフードバンクでの食材等の提供が進んでいるが、この問題の解決は、貧困対策をどうするかということが重要。それは行政で考え、取り組んでいかないといけない問題と思う。

実施目標計画No.29 自治会単位の福祉活動の支援について、評価がBBB、総合でBとあるが、自治会側からすると、3年度の活動はほとんどできていないので、高すぎると考える。

<事務局（社会福祉課）>

No.26 避難行動要支援者名簿については、担当課においても、決定的な方法がなく、なかなか進んでいないところ。今後、予定されている個別避難計画の推進と併せて名簿の提供も進めていきたい。No.29 自治会単位の福祉活動の支援の評価については、市での仮の評価でなく、協議会での受け止めが最終評価であるので、変更する。

<議 長>

コロナで活動ができなかったところがあるので、達成度をCとして、BCBでよいか。

～委員異議なし～

<事務局（社会福祉協議会）>

No.30 関連のホームページについては、御意見を踏まえ、来年度に向けて検討していく。

No.35 関連の子ども食堂については、一時的な支援にずっと寄りすぎるのは無理があると現場でも思っている。しかし、地域の子ども食堂を自治会や地区社協等、地域の皆さんに認識してもらいながら、皆さんの力をお借りして、県の宅食便等の支援につなげていくよう実施している。貧困から本当に脱却していくためには、仕事や家庭環境を整えるというところもあるが、それに対してはまだ模索中である。全国や県に成功例、そして防府に合う形を考えながら、貧困世帯の支援から自立につながるように企業や地域、施設と協議しながら進めているところ。

<議 長>

子ども食堂は、貧困対策の部分もあるが、ここから生活困窮者自立支援法といった別の仕組みに結びつける手立てがあるかどうかを大事。

学校の中では、支援が必要な子供がつかめたとしても個人情報の問題もあり、子ども食堂や地域の中での連絡は難しい現実があるのかいかがか。

<委員 B>

学校では、行政から支援が必要なこどもの連絡はもらう。学校側と地域の連携については、学校規模にもより、すべてが同じようにするのは難しいという現状はあると考える。

<委員 C>

障害福祉団体もコロナ関係もあって活動できづらい状況。実施目標計画No.26 避難行動要支援者名簿の提供について、市も要支援者の把握情報の更新をしっかりとやってほしい。評価もシビアにし、対策等につなげてほしい。

<事務局（社会福祉課）>

名簿の内容については、担当課で年に一回更新し、協定地区にお配りしているところ。

<委員 D>

実施目標計画No.27 交通安全と防犯等の活動支援について、我々の地区の交番は数年前に統廃合があったが、防犯に関して警察との連携はあるか。

また、先ほどの避難行動要支援者名簿の関係については、地元にしちんとした自主防災組織を作らない限りは、個人情報の問題もあるので、市から名簿をもらわない方がよいと考える。我々の地区では、組織の中で、名簿を元にどの程度の支援が必要な方かを整理し、それを1年ごとに改定している。

<議 長>

一つ目、警察の交番の統合の問題に市の権限がどこまであるのか。二つ目、要支援者名簿の取り扱いについて。

<事務局（社会福祉課）>

警察の配置に関する連携の部分については確認する。（※計画における市との連携は、地域福祉計画実施目標計画No.27に掲載のある内容のみです。）自主防災組織については、市では、地域での自主防災組織への取組について、相談に乗っていきことができるので、組織を進めながら、名簿の取得につなげていけたらと考える。

～まとめ～ <議 長>

コロナで活動を停止している状況から再び起こすのは難しいことである。地域福祉の根幹は人が集まることであるが、この3年間でコロナと付き合っていくことが必要となり、感染対策もわかってきた中で、許される限りで助け合いを作り、その中で、市や市社協がどうあるべきかを考えていくことが必要。

4 その他

<社会福祉協議会常務理事あいさつ>

有意義な協議ができたことを感謝申し上げます。市と連携を密にして、計画を着実に進めていきたい。